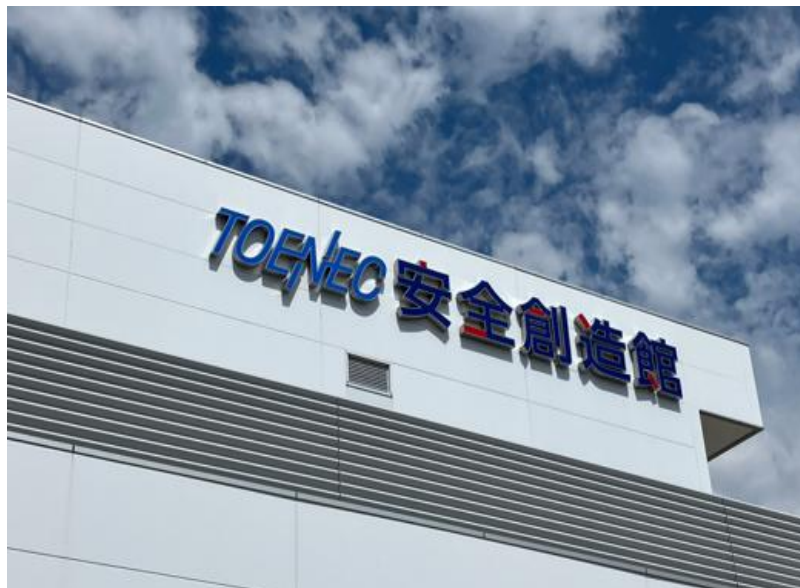


正式名称	株式会社トーエネック教育センター安全創造館
場所と アクセスなど	〒457-0819 愛知県名古屋市南区滝春町 1-79（教育センター内） 名鉄常滑線「大同町駅」より徒歩 3 分 （名鉄「名古屋駅」より電車で約 15 分） 見学および体感教育；Web 申込みによる予約制となります。 メール問い合わせ；scc-support@toenec.co.jp ＜安全創造館の掲載 URL＞ https://www.toenec.co.jp/company/safetycreation/index.html
安全創造館 の概要	 （安全創造館の玄関前；見学時に撮影） 1. 安全創造館設立の背景 トーエネック社は、経営理念に「考え挑戦するいきいき人間企業の実現」を掲げ、働く人の安全と健康の確保は経営の最優先事項としており、「安全はすべてに優先する」ということを念頭に労働災害の未然防止に努めている。 これを背景に、2017 年 10 月、創立 70 周年（2014 年）を機に「危険に関する感受性と安全意識の向上を目指した教育施設」として、危険体感施設「安全創造館」が開設された。 本施設は潜んだ危険の芽を「見える化」し、それらを自らの身をもって体感させる疑似体感教育を通して、危険に関する感受性や安全意識の向上を高めることにより、労働災害の撲滅に繋げていくことを目的としている。本施設での体感教育を通じて今一度原点に

戻り、安全を優先する意義を見つめ直し、全員の願いである「労働災害ゼロの達成」を目指している。

「安全創造館」のロゴマーク

文字の色は安全・安心な状態を示す「青色」で表わし、また様々な状況の中に潜在している「危険の芽」が将来顕在化し、労働災害に発展する可能性を「赤色」で表わしています。



(見学時に撮影)

エントランス (見学時に撮影)

危険体感教育受付、安全衛生活動の歴史パネル (写真の左側)、危険体感室の入口となる安全創造ゲート (写真の中央)、で構成されている。

会社創立から現在に至るまでの安全衛生活動等の展示は、大型パネルで視認性が良く印象的である。



2. 安全創造館における講師及び教育対象

(1) 講師

講師はスタッフがいきなり、他社の安全体験・体感施設を見学して、教育の効率化、内容の充実を図っている。

(2) 教育対象

社内教育および子会社・協力会社に教育を行っている。

また、官公庁および一般企業向けに見学および体感教育も行っている。

筆者（網倉）の所属組織においては、社員研修に利用させていただいている。

3. 危険体感教育の体系

(1) 企業や団体などの方を対象とした体験・体感コース（有料）

作業中に潜む危険の芽を疑似的に体験・体感でき、職種毎に共通的に潜在する危険を体験・体感できるように4つのコースを用意しており、全コースとも定員12名、受講時間は150分としている。

- ①Aコース；高所作業向け
- ②Bコース；電気工事作業向け
- ③Cコース；一般作業向け
- ④Dコース；様々な内容の選択型

危険体感教育の各コースメニューのご紹介

Aコース【高所作業向け】	時間 (約)
オリエンテーション・休憩・質疑応答等	30分
衝撃体験(人形・サンドバック落下)+落下物体体験(ボルト落下)	15分
墜落制止用器具のうち胴ベルト型宙吊り体感	15分
墜落制止用器具のうちフルハーネス型宙吊り体感	15分
フルハーネス装着	20分
電柱人形墜落体験(フック取付け位置確認)	10分
高所からの墜落体感(墜落の瞬間を感じる)	15分
開口部踏み抜きVR体感	30分

(1) ブルーゾーン

① 感電体験設備（高圧）



② 感電体感設備（低圧）



(2) レッドゾーン

③ 衝撃体験設備



④ 足場からの墜落体験設備



⑤ 落下物体体験設備



⑥ 墜落制止用器具比較体感設備



⑦ 梯子転落体感設備



⑧ 脚立転落体感設備



⑨ 電柱墜落体験設備

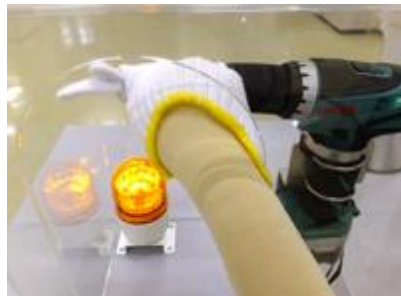


(3) オレンジゾーン

(10-1) ワイヤー挟まれ体感設備 (10-2) 地切り荷振れ体感設備



12 回転ドリル巻き込まれ体感設備



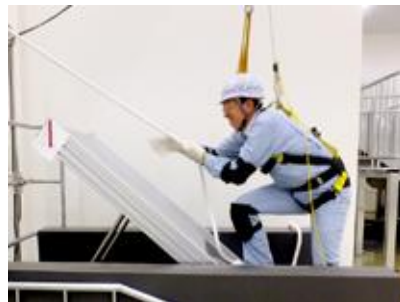
13 Vベルト巻き込まれ体感設備



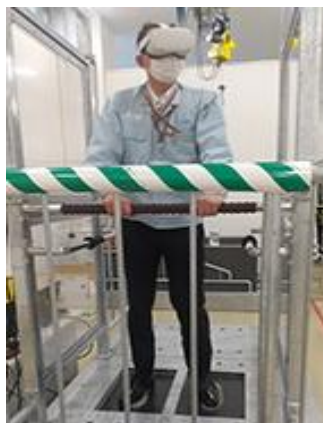
14 切創体感設備



15 傾斜屋根すべり体感設備



⑩ 踏み抜き体感設備



(4) パープルゾーン

⑪ 重量物倒壊体感設備



⑫ 重量物運搬体感設備



⑬ アーク溶接体験設備



⑭ 熱中症体感設備



(5) グリーンゾーン

㉔ 酸素欠乏体感設備



㉓ 土砂崩壊体感設備



土砂崩壊により身体の一部だけ埋まった場合でも、身動きが容易に取れなくなるリスクを6万個の土砂擬球で体感する設備。

(6) イエローゾーン

(㉔-1) 積載型トラッククレーン車転倒体験設備

トラッククレーンの荷役過重量による転倒リスクを体験する設備。



(㉔-2) 高所作業車逸走体験設備

傾斜地で高所作業車を設置する際、操作ミスにより滑って動き出すリスクを体験する設備。



	< 2025年度以降導入設備> ① 階段踏み外し体感設備（見学時に撮影） 急な傾斜のついた踏み板を、目視、歩行により体感し、階段に潜む危険性を知って頂くための体感装置とのこと。手摺を持つ重要性を学ぶことが出来る。  （7）ホワイトゾーン 社内教育にて活用している。 ②7 救命処置体験設備 ②8 高視認体験設備 ②9 交通画像K Y T 体験設備 ③0 衛生関係パネル表示 ③1 K Y T 体験設備 注 上記に掲載した「危険体感・体験設備の画像は、トーエネックのホームページより掲載」している。
感想	1. レッドゾーンの落下物体験設備を使用してどのような教育が行われているか説明を受けた。 社内をはじめ、社外の受講者にヘルメットの正しい被り方について習った記憶があるか否か質問を行うとほとんどの人が手を上げないことが判明したため、正しい被り方からの教育を行っているとのことである。 素焼きの植木鉢を使用して教育を行っているがそこにも意味があり、素焼きの植木鉢の強度が人の頭蓋骨の強度に近いためあえて使用していることを知る。 落下物は一つとは限らない。複数個の落下物もありえることより、ヘルメットの被り方が悪ければ一つめの落下物で外れてしまい、二つめが直撃すれば大切な命も守ることができなくなることの説明を受け、ヘルメットはなぜ正しく被らないといけないのか理解することができた。

	2. 高所作業時に作業床の確保が難しい場所では、墜落制止用器具の使用が義務化されている。 万が一、墜落した場合、119番をしてから救助されるまでの時間は救急隊が到着するまでに平均8.5分かかり、実際に救助されるには救急隊員が2次災害を起こさないための救助方法の打合せが始まり3分、1時間と経過する。 その時間、耐えることができるか考えながら吊られることにより墜落制止用器具を装着していれば本当に安全であるかを考えてもらう。 実際、宙吊り状態になると締付が苦しく数分と持たないことが実感できる。安全帯（墜落制止用器具）を装着していても安全が担保された状態でないことを理解してもらうことにより、自分の大切な命を守るためにどのような行動を取る必要があるかを考えさせる。 身体で危険を感じるにより”常に安全に行動する”事の大切さを教育していると理解できた。 これが危険体感教育の醍醐味であると思った。 3. 技術系社員だけでなく、事務系社員を含めた全社員に第二種電気工事士取得を奨励されているとのこと。総合設備企業として経営者の意気込みを感じた。 4. 危険体感教育には、盲点と言われていることがあるとの説明を受けた。それは、ただ体感するだけではアトラクション的感覚で終わってしまうと言われているとのことである。 そうならないために受講者には体感時、職場ではどのようなシチュエーションの時に災害が発生するかを想像しながら体感してもらう事を一番に心がけていることを教えてもらい、そのことによりこの体感教育が果のある教育となるよう努力していると感じた。 シチュエーションを浮かべることでできない業務経験の浅い受講者には、なぜ災害になるのかその仕組みを理解してもらうことを中心に教育をしているとのこと、受講者のレベルに合わせた教育を行っていることを知る事ができた。 5. 自社社員の体感教育のみにとどまることなく協力会社社員の体感教育も実施しており、関係企業も含めた安全文化の醸成を行っているところは企業の姿勢として学ぶことが多いと感じた。 6. 安全教育に関して会社の熱意、担当者の熱意、また、創意工夫を強く感じた。 総合設備企業としての体感・体験設備が主であるが、現業職のみの教育に留まっておらず、事務職にも体感教育を行っているとのこと、会社の仲間がどのような環境下で作業を行っているか状況共有
--	---

	もできる意欲的な取組と感じた。 7. 危険体感教育に関して、一般企業及び諸団体も受け入れており、業界全体の安全意識の底上げに貢献されていると感じた。また、企業の姿勢として学ぶことが多かった。更なる発展を期待する。
くここも お勧め＞	1. ノリタケの森 陶磁器メーカーの「ノリタケ」が創立 100 周年を記念してオープンした施設で、陶磁器の工場やオールドノリタケを展示するミュージアムが見学できる。絵付け体験はお子さまに人気のよう。ノリタケ食器を使ったレストラン、カフェも併設されている。ノリタケから TOTO や NGK が分社していった。 https://www.noritake.co.jp/mori/ 2. トヨタ産業技術記念館 「ノリタケの森」に近接している施設で、両方見学される方は共通券の購入がお得。トヨタグループ発祥の地に残された当時の建物を活かし、繊維機械と自動車技術の変遷を紹介。「繊維機械館」「自動車館」からなる。 https://www.tcmiit.org/ 3. 名古屋はグルメがいっぱい 味噌煮込みうどん、みそかつ、手羽唐揚げ、きしめん、エビフライ、天むす、ひつまぶし、モーニング

＜見学記作成＞	見学日：2025年3月27日 原案： 網倉。修正：三谷、渡辺、石山 写真： 三谷、渡辺、石山
---------	--

以上